

令和5年度 事業報告書
令和5年4月1日 から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 子育てネットワーク・ピッコロ

【1】事業の成果

1. 子育て支援のために行う一時保育事業

- (1) ピッコロの一時預かりは、公的な支援の狭間を埋める支援として利用されることがある。他支援では対応できない時間帯の支援を担った。
- (2) 小規模保育室のピッコロルームでは、子どもたちと野菜を苗から栽培して成長を見るとともに季節の味を楽しむことで、食育を行った。
- (3) 学童クラブ運営は新たに5学童を加え9学童の運営を任された。設備の修繕をすすめ、人材育成にも重きを置き、育成環境を整えることに努めた。

2. 子どもと大人のネットワーク作り事業

- (1) K-netひろばは市内外から親子の他、スタッフやジュニアサポーターの中学生世代等が参加している。活動の実施を通して、多世代間が繋がり合う場を提供することができた。
- (2) つどいのひろば事業は、コロナ禍が過ぎたことでランチタイムやコーヒーコーナーが再開した。外出や親子同士の交流のきっかけになり、来所した保護者に喜ばれた。

3. 子育てをサポートする人材育成・研修事業

- (1) 養育支援訪問事業では公開講座を行い、ピッコロの支援者に対して参加の呼びかけを行った。支援者が学び直し、さらに最新の知識を得る機会になった。
- (2) 支援者の会を始め、定例会と正会員のつどいを開始する前に会員が自由に集い、気軽に話せる会員主体の交流会を開催している。雑談も交えながら、会員同士が支援のこについて気軽に相談し合っている。

4. ファミリー・サポート・センター事業

- (1) ファミリー・サポートきよせでは、積極的に乳児検診に赴いた他、SNSを運用したイベントの告知を行い、多くの市民に事業が周知されるよう努めた。提供会員及び両方会員に対しても、細やかに聞き取りを行ったことで、継続的な活動に結び付いている。
- (2) 女子医大・東京医大ファミリー・サポートでは研修や講習会の制限が緩和され、保育サービス講習会や交流会を開催できた。
- (3) 東京医科歯科大学ファミリーサポートは大学と連携の強化を図り、定期的に学内へメールを一斉送信した。毎月一度、事務担当と情報共有を行った。
- (4) 介護サポート・ピッコロは、定期的な利用が続いている。活動の周知については、各事業所のケアマネージャーと各団体との活動報告を兼ねた情報交換会に参加し、地域に広く知られる機会になった。
- (5) 東京女子医科大学・介護サポートは常勤職員として新たにアドバイザーを迎えた。提供会員の新規登録もあり、人材の確保に努めた。

5. 家庭訪問型子育て支援事業

- (1) 養育支援訪問事業では、複雑化している家庭のニーズに対応できるよう、他事業との連携を強めた。
- (2) ひとり親支援では、差し迫った状況にある母子・父子家庭からの利用希望があるが、支援者の協力を得ながら迅速に対応を行えた。
- (3) ホームビジター派遣事業では、利用申し込みがあった家庭への、ビジターの紹介を円滑に行った。オーガナイザーは研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。

6. 子どもの育成を支援する事業

- (1) 赤ちゃんのチカラプロジェクトでは市内公立中学校で赤ちゃんとのふれあい体験を行い、命の尊さを体感すると共に、子育ての予備的な体験の場を提供した。協力した保護者にとっても、普段関りが薄い中学生や支援者との交流を通じて、地域での子育てをイメージする機会となった。
- (2) 厚生労働省助成金事業「見守り強化アクションプラン」では、地域の学生やピッコロの会員を派遣し、定期的に支援を行った。保護者からは希望する進路に行くことができたとの連絡や、生活面と精神面で安定してきたとの声があった。
- (3) 日本財団助成 子ども第三の居場所事業「たんぼぼ」の運営を開始した。週3日間開所し、長期休みには「のびるタイム」を設定して開所時間を延長した。小学生以上の子どもと保護者を主の対象として、居場所と食事の提供を行った。近隣家庭からの理解や、ボランティアの協力を得て運営を軌道に乗せられた。

7. 本会の目的を達成する事業

日本社会事業大学の実習生を受け入れた。学生は、地域の社会資源や、利用者のニーズに沿った支援の展開について学び、将来の福祉の担い手である学生の学びの一助になった。

【2】事業の実施に関する事項

- (1) 特定非営利活動に係る事業

	内容	実施日時	実施場所	従事者の	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子育て支援のために 行う一時保育事業	ピッコロの保育サービス事業 (個人・団体)	依頼日 依頼時間	利用者宅/支援者宅 団体保育場所	延べ 424人	市内・近隣市在住親子延べ167家庭・ 134団体	16,413
	小規模保育室	月～金 7:30～19:00	ピッコロルーム保育室	8人	市内在住親子 家庭	33,249
	学童クラブ	学校登校日	梅園・清明・四小・清瀬 第1・第2・第3・八小・十 小・中清戸学童	約50人	対象児童約620人と その保護者	339,189
子どもと大人のネット ワーク作り事業	K-net子育てひろば	毎月第2金曜日及び 4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・1・2・3月1 回～2回 年間15回 10:00～14:00	清瀬市男女共同参画セ ンター	10人	市内近隣市在住未就 園児親子 696人	1,400
	K-net中里ひろば	年4回第3水曜日 10:00～12:00	中里地域市民センター	10人	市内近隣市在住未就 園児親子 51人	
	K-netリフレッシュ講座	年8回 10:00～12:00	消費生活センター 児童センター	10人	市内近隣市在住未就 園児親子 109人	
	K-netジュニアサポーター養成講座	年1回	k-netひろば・ 竹丘つどいの広場	10人	市内小中高生希望者 約10人	
	K-net子育てサポータースキルアップ講座	年1回	ころぼっくるホール	10人	子育て支援者 18人	
	清瀬市つどいのひろば受託事業	毎週6日 10:00～15:00	元町つどいの広場・ 竹丘つどいの広場	10人	子育て中の大人と 子ども約 10,942人	9,061
子育てをサポートする 人材育成研修事業	支援者の会	毎月1回	ピッコロのおうち・ たんぼぼ	延べ80 人	支援者100人	0
ファミリー・サポート センター事業	ファミリーサポートセンター受託事業	依頼日7:00～22:00 のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅 講習会・交流会会場	約300 人	市内親子(依頼会員) 約2,000組	15,050
	東京医大女性研究者支援事業・東京女子 医大ファミリーサポート連携プログラム事業	依頼日7:00～22:00 のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅 講習会・交流会会場	約200 人	対象親子(依頼会員) 約300組	8,733
	東京医科歯科大ファミリーサポート 対象に 仕事と家庭の両立するための子育て支援	依頼日7:00～22:00 のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅 講習会・交流会会場	約130 人	対象親子(依頼会員) 約160組	5,836
	家族まるごと支援事業・介護サポート	依頼日7:00～22:00 のうち依頼時間	利用者宅 講習会・交流会会場	約40 人	市内介護を必要とする 会員 約20人	27
	東京女子医科大学・介護サポート 会員制による相互援助活動	依頼日7:00～22:00 のうち依頼時間	利用者宅 講習会・交流会会場	約10人	介護を必要とする会員 1人	8,168
家庭訪問型子育て支 援事業	養育支援ヘルパー受託事業	依頼日 依頼時間	利用者宅	延べ73 人	育児支援対象家庭 130件	180
	ひとり親家庭ホームヘルプサービス受託事 業	依頼日 依頼時間	利用者宅	延べ 145人	ひとり親家庭対象家 庭843件	1,734
	清瀬市ホームビジター派遣事業(支援者が 訪問保護者と共にボランティアで子育てを 支援する)	依頼日 依頼時間	利用者宅	103人	利用希望家庭 31家庭	2,200
子どもの成育を支援す る事業	清瀬市教育委員会委託事業「赤ちゃんのチ カラプロジェクト」事業	公立中学5か所 6日開催	市内公立中学校5校 18学級	延べ 108人	0～1歳の親子延べ69 人、市内中学3年生 603人	660
	「清瀬市子どもの見守り強化アクションプラン」 事業(食事提供・学習、生活支援をす る)	4/1～3/31依頼日	清瀬市内利用者宅 公共施設	延べ 160人	緊急的に見守り支援 が必要な家庭 16家庭 160件	4,922
	日本財団助成事業「こども第三の居場所」 事業	5/22開所～3/31 月水金13～19:00 長期休みは時間延長	ピッコロのおうち・ たんぼぼ	延べ 260人	利用希望の地域住民 子ども延べ2,431人 大人延べ644人	16,990
本会の目的を達成する 事業	子ども家庭ソーシャルワーク実習生の受け 入れ	7/11～10/18まで の間、計20日間	つどいの広場元町・ピッ コロのおうち・たんぼぼ	1名	市内乳幼児～中学生 の児童、保護者延べ 100人	0
2. その他の事業						
なし						